

# 保護者用プログラム

担当者 栗川美里・萩谷由実子

## ○プログラム制作の背景

制作に至った背景として次の点が挙げられる。

- ・文部科学省の調査より、保護者が認識している子どものインターネット利用目的と実際の利用目的との間にギャップが見られた。
- ・特に携帯電話の契約は、未成年の場合、保護者名義であり、子どもの実態を保護者は認識する義務がある。
- ・保護者にパソコン・ケータイのリスクに対する正しい知識があれば、子どもたちにとって心強い存在となると考えられる。

以上の背景を考え、主に事例を通しながら、子どもが携帯電話やパソコンを使う上でのリスクを保護者も主体的に考えられるようにプログラム制作を行った。

## ○プログラムの目標

- ・子どもを取り巻くネットに関する概念や実態、基本的な知識を定着させる  
→子どもの携帯電話利用目的・学校裏サイト・プロフ・メール諸問題の事例を見ながら、実態を掴む。
- ・子どものインターネット利用に対するリスクを学ばせる  
→携帯電話やパソコンのインターネット利用において実際に起きた子どもの事例をもとにしてリスクを考えていく。
- ・ネットいじめの対応策を知らせる  
→ネットいじめなどが起きた時の対処法や、予防としてフィルタリングの仕方を教え、誤った知識（フィルタリングをすると音楽をダウンロードできないなど）を取り除く。
- ・家庭でのルール作り（話し合い）やフィルタリングを、家庭で実行してもらう  
→家庭で携帯電話やパソコンを使う機会が多いことから、家庭でのルールを徹底させ、子どもと共に正しいフィルタリングを実行してもらうようにする。

## ○指導の流れ（概要）

「実態調査の把握」「事例」「対応策」の3部構成から成り立っている。

**実態 → 事例 → 説明 → 具体的な対応策**

の順序で進む。また画像やハイパーリンクを使い、なるべく実物を見せるようにし、実際に体験してもらえよう配慮した。事例に関しては、なるべく東北地方で起こった事例を使い、当事者意識を少しでも持ってもらうよう配慮した。最終目標は、保護者にネットいじめの実態やプロフの危険性、現状について把握してもらい、家庭に帰った時に、実際にフィルタリングや家族のルールづくりを行ってもらうことが最大の目的である。

## ○使用する教材・資料

主に PowerPoint を使う。講義場所の環境によっては実際にパソコンで「学校裏サイト」「プロフ」を見ながら、行うことができる。また、資料としては、用語の説明と詳しい携帯電話の会社別の迷惑メール拒否設定の仕方を説明したものを配布する。

## ○プログラムの特徴

- ◆学校裏サイト、プロフ、有害サイトなどを実物用いることで分かりやすくした。
- ◆学校裏サイトの事例の一部は本研究所『学校裏サイトパトロール隊』で実際に津軽地域の学校裏サイトで起こった事例を提示し、より身近に感じられるように配慮した。
- ◆津軽地域の事例を提示することで、当事者意識を持って取り組んでもらえるように配慮した。